

未来技術等を活用した心が通う持続可能なまちづくり

子育て環境日本一を目指すまちに

ICTを

第7次舞鶴市総合計画に基づき、まちづくりの方向性や市の取り組み施策・事業をお伝えする「市政の今」。今回はICTを活用した質の高い乳幼児教育の推進についてお伝えします。



SDGs未来都市



▲登降園はタブレットで管理

保育士を取り巻く環境

保育サービスの安定供給が求められる中、昨今、女性の就業率の向上などに伴う保育ニーズの増加を背景に、保育の担い手である保育士の需要は全国的に高い状況です。

また、保育士は、日々の保育のほかに、保育記録の作成や安全管理の徹底、研修・会議への参加、保護者とのコミュニケーションなどさまざまな業務があり、その負担が増加する中で、より質の高い保育を目指すため、業務負担の軽減がひとつの課題になっています。

ICT化で業務の効率化

市では、子どもの豊かな育ちを支える環境づくりとして、子どもの主体性を育む保育の実践などによる質の高い乳幼児教育の充実や良好な環境づくりに取り組んでいます。こうした中、平成28年度から民間保育園へ保育所業務を

効率化するためのさまざまなシステム導入などを支援し、保育業務の負担軽減や保育の質の向上に取り組んできました。例えば、これまで手書きで作成していた保育記録や指導計画などの書類作成業務をパソコンやタブレット端末で作成し、保存、情報共有するなど、保育関連データの活用を促進するためのシステムの導入。また、登園・降園時の確認を手書きからICタグ・ICカード方式で時刻を自動管理し、リアルタイムで園児の登園・降園の状況や出席確認ができるシステム、保護者への緊急時の連絡等を一斉配信するためのシステムなどの導入があります。

また、令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症を想定した「新しい生活様式」に対応するため、職員間や園児、保護者等との密集・密接を減らす対策として、見守りカメラや午睡チェックセンサー(※)などICTを

※午睡チェックセンサー…昼寝などの子どもの睡眠時間に体の向きなどを感知し記録する補助ツール

活用した園児の健康観察やオンライン会議、保育士の研修、動画配信などに対応できる機器の購入・環境整備の支援を行っています。

公立園でも、令和2年度に保育業務支援システムや登降園管理システム、保護者との連絡支援システムなどを導入。令和3年度からは「新しい生活様式」に対応しながら保育の質向上に取り組んでいます。

ICT化の効果と乳幼児教育推進

保育現場でICTを活用することで、保育士の業務負担を全て軽減できるものではありません。しかし、ICTの活用は、保育に関する書類作成や登降園の記録、給食費等の徴収・管理など、保育以外の業務負担の軽減につながり、軽減された時間の有効活用で、保育の質向上が期待できます。また、子どもの成長に関する情報は、これまで紙で記録していたものがデータ化されることで、一元管理ができ、職員間での情報共有や分析などにも活用することができるようになります。

保育士の見守りを補完する役割がある見守りカメラや午睡チェックセンサーなどを活用することで、新型コロナウイルス対策だけでなく安全・

安心な保育環境の向上につながります。

保護者との関係においても、園からのお知らせや緊急時の連絡、出欠の連絡等の手段に連絡支援システムを活用することで、情報共有がより早く確実にできるようになります。また、登降園管理システムを活用することで、朝夕のスムーズな送り迎えが可能になり、保護者にとっても利便性が向上します。

このように、ICTの活用を単なる保育業務を省力化するためのものとしてではなく、保育の質の向上や乳幼児教育の良好な環境づくりを促進するための手法として取り入れながら、市全体の質の高い乳幼児教育の推進に取り組んでいきます。



▲業務の効率化でできた時間は子ども達の保育へ

ICTの活用とコミュニケーション

前は出席簿への記入で登園を管理していましたが、玄関で登園を非接触で確認するようになったので、現代の保護者の年代、スマホ世代は利用しやすいと思います。欠席の連絡も容易になりました。こうした情報がすぐにタブレットに反映されるので、保育士の業務軽減につながっており、非接触ということで感染予防の面からもメリットがあると考えています。

また、園からのお知らせをプリントで渡しても白黒で文字が多く、なかなか目につきにくいということがありましたが、子どもの発達の姿や、この年齢ではこの発達というようなものを写真で、カラーで共有できることになったことで、保護者にも伝わりやすくなったと思っています。

便利になったものは活用しつつ、やはり顔と顔を合わせて仕事をする職場なので、コミュニケーションは大事にしていきたいと思っています。

うみべのもり保育所
所長 山内 裕子さん

人の目とICTでダブルチェック

子どもの環境そのものに変化があるところまでは至っていませんが、今までは出欠を帳面に集約して管理していたのが、登降園管理システムでチェックが自動になったことで、朝に子どもに面と向かって接する時間が増えました。登降園のデータは共通で管理できるので、調理部門で出欠の確認が容易になるなどのメリットもあります。

また、午睡チェックは人の目を必ず入れなくてはいいませんが、午睡チェックセンサーは寝ている向きまでチェックしており、二重で見ることでより安心な環境が整いました。

まだ業務システム全て活用できているわけではないので、取り組みやすいところから始めて、今後さらなる保育環境の充実を進めたいと思います。

舞鶴市民間保育園連盟会長
(永福こども園 園長) 森 宏昭さん